茨城大学大学院理工学研究科　都市システム工学専攻　令和８年度前期　教育点検報告書

令和 8 年 9 月 18 日

報告者　都市システム工学専攻　専攻長　原田　隆郎

１．実施日時と場所

令和 8 年 9 月 18 日（金）11:10～12:00　（TEAMS オンライン）

14:30～16:00　（TEAMS オンライン）

２．出席者

常勤教員：小林薫，原田隆郎，桑原祐史，藤田昌史，熊澤貴之，平田輝満，車谷麻緒，肥田剛典，増永英治，一ノ瀬彩，稲用隆一，大村高広，須郷大地，遠藤克彦，久野靖広

（常勤教員のうちの欠席者：横木裕宗，伊藤大知，海野遥香）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

３．添付資料

資料 1-1　2026 年度（前期）都市システム工学専攻・教育改善委員会 議事録

資料 1-2　2026 年度（前期）都市システム工学科・専攻 FD 研修会議事録

資料 2　2026 年度（前期）学科・専攻教育改善委員会および FD 研修会 議事次第

資料 3　2026 年度（前期）都市システム工学専攻 授業点検改善表集

４．授業点検の実際

４．１　アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり.

常勤教員担当科目分：　13 科目／常勤教員担当科目総数　13 科目

非常勤教員担当科目分：　1 科目／非常勤教員担当科目総数 1 科目

４．２　点検した科目

構造解析学特論，地盤材料学特論，国土空間情報特論，GIS 地域調査・分析法特論，知的情報処理特論，土木計画学特論Ⅰ，土木計画学特論Ⅱ，水環境学特論Ⅰ，水環境学特論Ⅱ，建築都市計画学特論，建築史・意匠特論 I，建築都市デザインスタジオⅠ，建築都市デザインスタジオⅡ，建築環境額設計特論（前期に開講した専門科目の総数 14 科目中の 100 パーセント）

４．３　具体的な点検方法

前期に開講した 30 科目中 30 科目について，以下の方法で点検を実施した．各科目の具体的な点検結果は，資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと．

- 4〜5 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに，各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて，特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し，それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で，点検を実施した．
- 随時,提出済みの電子データや,茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し，それに関しても必要に応じて議論した．
- ファイル提出された教員間ネットワークの活動状況についても，確認した．
- TA を利用している授業は，TA 利用の実際やその効果について授業資料にまとめている．
- 各科目間の成績評価の分布状況を『成績分布表』を用いて確認した．（R3 機関別認証評価対応）

４．４　（専攻の点検報告書のみ）特別実験，特別演習等の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習Ⅰ，建築デザイン特別演習Ⅰ，社会基盤デザイン特別研究Ⅰ，建築デザイン特別研究Ⅰの４科目については，各教員から研究室ごとの状況について報告があり問題なく活動が進んでいることが確認された．

５．点検評価の結果

５．１　昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

点検を行った全ての科目において，昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された．

５．２　今回の授業方法で優れている点

「水環境学特論Ⅱ」では，各自のノート PC を用いた数値計算を毎回実施し，最終的に学生が自力で計算できるまで技能を習得させており，一定の学習効果が得られている．「建築史・意匠特論Ⅰ」では，自発的な学修を促す取組が高く評価され，授業外での予習・復習や，建築史と現代建築・研究を関連付けた学修につながっている．また，「建築都市デザインスタジオⅠ」では，実際の住宅プロジェクトを題材とし，エンジニアリングを踏まえた提案を行わせるなど，実践的な課題設定がなされている．

５．３　今回の授業方法で改善すべき点

多くの科目は大きな問題なく実施されているが，早期履修者への対応や学生の主体的な学修を支える運用面に改善の余地がある．「構造解析学特論」では，早期履修者が初回授業から出席できるルール整備が必要との指摘があり，「建築都市計画学特論」でも早期履修者

が初回から manaba や教務情報ポータルサイトを利用できる環境整備が求められている.「知的情報処理特論」では，授業に出席していてもレポート未提出により単位を取得できない学生がみられ，課題提出を促す働きかけが必要である．また，「建築都市デザインスタジオⅠ」では，施主への直接プレゼンテーションが実施できなかったため，今後は授業スケジュールを調整し，クライアントとの打合せを取り入れるなど，より実践性を高める工夫が望まれる．

６．教育改善活動

会議中に抽出された問題点について，その改善方法を議論したところ，以下のような意見があった．

- 早期履修学生が授業開始時から円滑に受講できるよう，履修手続きや学修支援システムの利用環境を含めた運用上の課題を共有し，改善方法について検討した．
- 学生の主体的・継続的な学修を促すため，予習・復習，課題提出，授業外学修への取組状況を把握し，適切な指導や働きかけを行う必要性を確認した．
- 専門知識の修得に加え，PC を用いた演習や実際のプロジェクトを題材とした課題など，実践的な教育を積極的に取り入れ，教育効果の向上を図った．
- 特別演習・特別研究を含む大学院教育の実施状況を教員間で共有・点検し，学生の研究活動や学修状況を把握するとともに，教育・研究指導の質の維持・向上を図った．

また，以下のトピックについても意見交換を行った．

○修士論文発表会開催形式と卒業研究発表会の実施方法

専攻の年度末の修士論文発表会は，昨年度から社会基盤と建築プログラムをもとに 2 会場制を導入した．学生・教員の負担軽減や発表・議論時間の確保などがメリットとしてあるが，参加教員が 2 会場へ分散することへの懸念も示された．修論発表会の実績をもとに，卒業研究発表会の開催形式についての議論が行われ以下のような意見が出た．本件は学部の卒業研究に関するものであるが，修士過程における教育活動とも相互に関係することからここに報告する．

- 昨年度後期の FD での議論を踏まえ卒業研究発表会を従来の 1 会場から 2 会場に分けて実施する案について検討した．2 会場化により現在 1 日半を要している発表会の時間を短縮し，学生・教員双方の負担を軽減できるとの意見があった．
- 一方，卒業研究では専門分野以外の基礎的知識や関心を養うことも重要であり，少人数の学科をさらに分けることへの慎重な意見も示された．
- 2 会場制を採用する場合には，DP，専門分野，融合研究テーマ等のいずれを基準として会場を分けるかに加え，グループ教員による評価方法や優秀発表賞の選出方法についても検討する必要があることを確認した．

・ 今後，発表時間の効率化と分野横断的な教育効果の双方を考慮し，発表会の実施形式を継続して検討することとした.

<u>〇研究室に在籍する学生の研究組状況について</u>

・ 就職活動等を理由として研究室に通わず，研究活動への取組が十分でない大学院生の事例について情報共有し対応を議論した.
・ 就職活動中であっても学業を優先することを基本とし，合理的な理由のない欠席等については安易に認めるべきではないとの認識を共有した.
・ 継続的に指導しても自律的な研究活動が認められない場合には，特別演習・特別研究の単位認定や修士論文審査等において，学修・研究の実態を踏まえて適切かつ厳正に評価する必要があることを確認した.

７．報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を TEAMS 内に設置した学科 FD チャネルに保管し，学科の全教員が自由に閲覧できるようにした.

８．『産学連携カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

直近の産学連携カリキュラム改良委員会における議論を受けて，FD 研修会では学生のモチベーションをいかに向上させ，学習を促しいくかについて議論を行い，学年別の成績分布等を比較し，近年の学生の学習状況を共有し適切な授業方法等についての議論を行なっている（資料 1-2 参照）． 昨年度の産学連携カリキュラム改良委員会で得られた成果や意見が，今年度の授業内容に反映されているかを確認した．特に情報処理技術やデータサイエンスに関する教育内容について，カリキュラム改善の成果が今年度の授業に反映されていることを確認した.

９．その他

特になし.